

令和6年度第1回朝来市創生会議意見まとめ

【意見交換①】事業目的やKPI達成に向けての改善が必要なこと

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

朝来市創生会議意見

- ①子どもたちが、地域の大人たちと接する機会をつくるだけでなく、地域行事の運営側になるなど、主体的に地域に関わることが必要。
- ②地域主体の行事は、子どもたちがケガをした場合に、保護者からの指摘を恐れるあまりに、地域住民と子どもたちが関わりを持てていない現状がある。そのため、親が子どもたちの「事故やケガも経験の1つ」というような社会の寛容性が求められている。（以前はそうだった）
- ③お母さん同士の活動をSNS（インスタグラムなど）や口コミで繋ぐことや、誘い合うことは、生き生きとした活動に繋がるだけでなく、参加しやすくなる。

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

朝来市創生会議意見

- ①自分の好きなこと、得意なことを発揮しやすいまたは活かしやすい環境（「場づくり」「しくみづくり」）が必要。
- ②自らの特技などを活かしやすくする（高いレベルではなく、少し得意くらいのレベル）ことで、発表の場が創出され、活躍の場が広がるのではないかと。さらには講師として活動することで、自信にも繋がる。
- ③参加者の気持ちや声を企画側・運営側に伝えることがモチベーションを上げることに繋がる。

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

朝来市創生会議意見

- ①「無いものねだり」をするのではなく「あるもの探し」の視点が必要。住んでいる人も移住者などの外部視点を聞き、朝来市の魅力を見つめ直し実感することが必要。

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

朝来市創生会議意見

- ①子育ての楽しさや喜びは経験しないと知ることができないため、中高生の頃から子どもと接する機会をつくることも検討する。（例：赤ちゃん先生）
- ②祖父母が近くにいることを活かして、夫婦のみではなく、祖父母や地域の皆さんが子育てを支援してくれる環境がある朝来市をPRすることが必要。
- ③既婚者が、結婚の良さを伝えていくことが大切。
- ④夫婦間でどうしても不平不満が漏れがちで、不平不満が結婚の魅力を下げている。互いのうれしいこと、助かっていることを言葉にして伝えることが大切。

◆一人一人の行動につなげる情報発信

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

朝来市創生会議意見

- ①移住者をよそ者扱いせずに、地域の一員としての「居場所」があることが大切。
- ②移住者と移住者同士、同世代などとの交流や、移住者が不安を解消できるような場をすることで、移住者も地域活動に参加しやすくなるのではないかな。

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

朝来市創生会議意見

- ①情報発信を通じて市民同士の繋がりが生まれ、発信者が誰か分かることで、安心して繋がり、参加しやすくなる情報発信サイトがあると良い。
 - ②市民活動などに対して、口コミを投稿し、みんなで作る朝来市の指数を示すような仕組み（ポータルサイト）を作ることによって、移住者や市外の移住希望者も他地域の活動など、自分に合った活動に参加しやすくなる。活動の口コミが安心感に繋がる。
- (※参考：社会的処方ポータルサイト「つながる DAY YABU」養父市健康福祉部社会的処方推進課)
に市民参加者の口コミが投稿できるようになれば良い。

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

朝来市創生会議意見

- ①但馬地域を対象とした合同企業説明会などで、市内企業のPRを積極的に行う必要がある。また、企業説明会の実施方法もオンラインになれた学生が多いため、対面方式以外の方法についても検討が必要。
- ②都市部が売り手市場であるため、但馬地域は非常に厳しい現状がある。

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

朝来市創生会議意見

- ①女性の創業のほか、創業後の支援が必要。
- ②コロナ禍を過ぎて、廃業が増えている。継業の促進に向けて、KPIを見直すべき。

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

朝来市創生会議意見

- ①子育て中の夫婦の隙間時間の活用が多様な働き方につながる。現状では、女性が子育てを担う場合が多いため、女性をターゲットとした新たな働き方について検討することが必要。
- ②男性も副業の推進を検討するべき。
- ③労働力の効率ある配分が必要。そのためには、デジタル技術の活用を検討が必要。

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

朝来市創生会議意見

- ①インバウンドを見据えたKPIの見直しが必要。
- ②城崎にはインバウンドが多く来ているため、誘引するための方策を検討する必要がある。
- ③国内観光客はどうしても減少傾向にある。そういった中で、売り上げを維持するためには、単価を見直す必要がある。(単価×客数＝売上、インバウンドは単価が高い)

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

朝来市創生会議意見

- ①古民家を活用した宿泊環境の整備を。
- ②まずは泊まっていただき、消費を増やす必要がある。その手法として農業体験なども検討する必要がある。
- ③ECサイトを活用し、インバウンドを獲得することで消費額増につなげる。

◎インバウンド観光の推進

朝来市創生会議意見

- ①インバウンド観光の担い手づくりに取り組まなければならない。
- ②朝来市の魅力である「暮らし」をインバウンドに対してどう置き換えていくか検討し、朝来市ならではのインバウンド観光を見い出す必要がある。
- ③町並み、酒蔵など、インバウンドに届く情報発信が必要。

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

朝来市創生会議意見

- ①気候変動の影響が大きい。
- ②単価の高い「畜産」にもっと力を入れるべきでは。
- ③岩津ねぎの認知度を上げ、県内外のマーケットの拡大を図る必要がある。
- ④一方で、朝来市の売りは「岩津ねぎ」だけでなく、さまざまな農作物がある。まずは、県内マーケットを広げていく必要がある。

◎農業所得の向上に向けた取組の推進

朝来市創生会議意見

- ①休耕田の活用を推進し、効率的な農業を進める必要がある。
- ②農作物の高付加価値化を推進する必要がある。
- ③農業、畜産業の連携による循環型農業をさらに推進する必要がある。

◎森林の利活用の推進

朝来市創生会議意見

- ①Jクレジットを活用するなど、稼げる林業の仕組みを検討する必要がある。
- ②人材不足、外材輸入など、さまざまな要因によって林業が産業として広がらない状況にある。そのため、Jクレジットなどの新たな仕組みを活用し、儲かる産業としての方策を継続して検討する必要がある。

基本目標 3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

朝来市創生会議意見

※基本目標 1 「◆ASAGOiNG な人を育む」 項と同意見のため省略

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎一人一人が地域とのつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

朝来市創生会議意見

- ①「こうあるべき」「ここじゃないといけない」というこれまでの考え方を押し付けるのではなく、多様な価値観がある中で、それぞれの市民が参加しやすい多様な場があることが大切。
- ②「ここに行けば、こんな場所があるよ」というように、住んでいる地域に限らずとも、それぞれの世代や同じ境遇の方々に合う場があることで、地域活動の参加に繋がる。

→基本目標 1 中の「◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実」にも関連

(※参考：社会的処方ポータルサイト「つながる DAY YABU」養父市健康福祉部社会的処方推進課)

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

朝来市創生会議意見

- ①在住外国人を労働力としてとらえるのではなく、地域の一員として受け入れるためには、地域住民の寛容さと、受入れ体制が求められる。
- ②地域住民と在住外国人とのつながりを生む交流の拠点が必要。食を通じた交流などがあれば。

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

朝来市創生会議意見

- ①お試し期間など気軽に参加できる取組などのきっかけがあることで、「行ってみよう」という行動に繋がる。
- ②子育て中の人は運動したいが、子どもを預ける場などが課題。
- ③20代～30代など若いうちからの食育が必要。歳を重ねてからでは遅い。短時間でもできる簡単な料理教室の開催を検討する必要がある。

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

朝来市創生会議意見

- ①芸術文化観光専門職大学の取組を、さまざまな世代にも情報が届くように検討が必要。
※現状では情報が分からない。
- ②3市連携により福知山と農業を通じたマルシェを開催している。
- ③3市連携による取組は良いことではあるが、その情報が行政で止まっているのでは。

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

朝来市創生会議意見

- ①子どもたちの遊ぶ場所が必要。空き施設の有効活用を。
- ②全市的な対話の場が必要。

◎生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

朝来市創生会議意見

- ①農業や観光業との連携が必要。
- ②自然景観の代表的な要素であるコケには、観光資源としての可能性がある。
- ③生野町は兵庫県の分水嶺であり、その強みを活かすとともに、水資源の重要性を伝えていく必要がある。
- ④自然や環境に配慮した農業の推進が求められている。

【意見交換②】今後の朝来市のまちづくりに必要な視点、克服すべき課題

朝来市創生会議意見

◆人口が減っても市民が生き生きと地域が元気で楽しいまちに。

◆一人一人が主役になれる。一人の100歩より100人が1歩を踏み出せるようなまちに。

- ①新たな活動を応援しあえるようなまちにしたい。
- ②他の活動を知る機会を作ること、朝来市にいいところを取り入れる。
- ③従来のやり方を否定せず尊重したうえで、やり方を固定化するのではなく、新たな方法に柔軟に変わることが大切。
- ④若い人、若い女性が住みやすいまち
- ⑤子育ての世代の女性の声だけでなく子どもの声を聴き、子育てをまちづくりのベースにしたまちづくりを。
- ⑥幸福度を高める取り組みが必要。
- ⑦暮らし、活動、仕事を楽しいと実感できるまち。
- ⑧みんなで作り上げていく参加型の仕組みを検討する必要がある。

◆人と人とのつながり

- ①働く世代、子育て世代などに配慮した関わり方、つながるための柔軟な変化が地域にも求められている。
- ②核家族の時代だからこそ、世代間連携による子育ての実現が求められている。

その他・全般

朝来市創生会議意見

- ①消滅可能性都市に上げられている。消滅しないために、何を残していくべきか、10年先の姿を想像し、順位付けすることも必要ではないか。
- ②朝来市の事業承継は7割が決まっていない状況で、ワースト1。将来に対する不安が要因。